

おのきた

# 尾北校長室から

第 31 号



## Blue Rose ~ Mission Impossible

槇峰祭が終わった。一人一人の心に何が刻まれたのだろうか？ どんなことであれ、どんな形であれ、それぞれのその経験をこれからの学校生活の中で生かしてもらいたいと思う。

さて本題。今年の梅雨は 3 週間も早くやってきた。「5月の主役・ツツジがまだ咲いているのに…」と鉛色の空を恨めしく見上げた人も多かったのではないか。暦は進み、梅雨のあとさきの庭や道端で主役となっているのは、赤や青のパステルカラーの花を咲かせる紫陽花である。我が家にある3か所の紫陽花は 1 本の木から挿し木をして増やしたものだが、不思議にも花の色が違うので、調べると一般に土壌が酸性であれば青味がかり、アルカリ性では赤味がかった色になるのだという。

標題の Blue Rose には、文字通り「青いバラ」の他に「不可能」、「あいえないこと」という意味がある。そもそもバラは青い色素をもたず、自然界には青い色のバラは存在しえなかったからである。「不可能」の代名詞だった Blue Rose だが、日本の研究者たちがパンジーから青い色素を取り出し、遺伝子組換え操作をして青いバラを誕生させることになる。この青いバラは 2009 年から、「アプローズ」(正式名：SUNTORY blue rose APPLAUSE) の商品名で販売されている。



花の色は左の写真のように、現在のバイオテクノロジーではパステルカラーの紫かかった青色にとどまるのだという。ちなみに、applause とは「拍手喝采」という意味であり、不可能への挑戦・成功を祝う意味が込められている。青いバラが実現したことにより、Blue Rose も「奇跡」、「神の祝福」といった意味を含むようになった。

2 年前、本物を見てみたくなって、通信販売でこのアプローズを買った。1 本が 3,500 円ぐらいだったと記憶している。通信販売では同時に鮮やかな青色のバラも見かけたが、それは白い花びらに青い水を吸わせたもので、1 本が 800 円ぐらいである。菊やカーネーション、ユリなども自然界には青色の花は存在せず、「青い菊」はバラに遅れること 8 年、2017 年ようやく誕生している。さらに開発が進むと、もっと濃い鮮やかな青色のバラや菊ができるのではないかと思う。

青いバラの挑戦に学び、自分の可能性の扉をこじ開けていくには、まずは「願いを叶えたい」という思いを強くもつことがスタート地点である。そのうえで、小さくとも具体的な行動を起こすこと。**およそ物事の結果は、その前の準備の段階ですでに勝負がついている**ことがほとんどである。経験的に言えば、人生の出来事で、その多くは**号砲の鳴らないレース**であったように思う。それがレースだと気づいた人から、順次、静かにスタートしていくのである。

最後に、Blue Rose の花言葉を紹介する。それは、「夢叶う」。ありえないと思えたことでも一所懸命に取り組むことにより、夢は叶うもの——想像以上の自分になれるもの。それぞれの願いの実現に向け、少しずつ、確実に歩を進めてほしい。人として成長の途上にある君たちにとって、**今日という一日もまた、何かのレースの真ただ中**である。

